

7農総試第102-2号
令和7年5月2日

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記
令和7年度病害虫発生予報第2号（5月）

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和7年度病害虫発生予報第2号（5月）

令和7年5月2日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもち発生量は平年並	±
	イネミズゾウムシ	やや多い	県全域	前年6月下旬の本田発生量はやや多い 前年の予察灯における誘殺数は概ね平年並	+ ±
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	赤かび病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量は平年並 前年5月下旬の発生量が多い 開花期以降に降雨があった	± + +
	さび病類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±

・防除対策

〔イネ・イネミズゾウムシ〕

アレス箱粒剤、リディア箱粒剤などを用いて箱施薬を行いましょう。

〔ムギ類・赤かび病〕

4月25日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第1号」を参考にしてください。

・留意事項

スクミリンゴガイの発生が確認されているほ場では、薬剤散布や浅水管理等の防除対策を実施しましょう。詳細は、4月7日発表の「スクミリンゴガイ情報第1号（水稻）」を参考にしてください。

ツマジロクサヨトウについては、これまでに本県への飛来に適した気象条件が2回（4月15日、23日）出現しています。飼料用トウモロコシ等においては、生育初期に食害されると被害が大きくなるため、発生状況に注意しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	県全域	3月の越年発病葉率はやや高い	＋
	ミカンハダニ	平年並	県全域	3月上旬の発生量は平年並 5月の気温は平年並か高い	± ±～＋
ナシ	黒星病	平年並	県全域	4月上旬の花そう基部の発病率は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の気温は平年並か高い 5月の降水量はほぼ平年並	＋ ±～＋ ±
モモ	黒星病	平年並	県全域	4月下旬の発病枝率は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	前年の発生量はやや少ない 4月下旬の発病枝率はやや少ない 5月の降水量はほぼ平年並	－ － ±
	ナシヒメシンクイ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い	＋
	モモハモグリガ	平年並	県全域	4月下旬現在、被害を確認していない（平年並） フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
	べと病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	前年秋の発生量はやや少ない	－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬世代成虫密度は平年並 チャバネアオカメムシのフェロモントラップの誘殺数はやや多い 5月の気温は平年並か高い	± + ±～+

・防除対策

〔ウンシュウミカン・そうか病〕

ファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔ナシ・アブラムシ類〕

ウララDF、バリアード顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔モモ・ナシヒメシンクイ〕

4月17日発表の「ナシヒメシンクイ情報第1号（モモ）」を参照してください。

〔果樹共通・カメムシ類〕

本日発表の「果樹カメムシ類情報第2号」を参照してください。

・留意事項

有効積算温度を利用して各種害虫の防除適期を予測しました。

チャノキイロアザミウマは表のとおりです。防除対策については4月30日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第1号」を参照してください。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（5月2日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/18	5/21	5/14	5/15	5/18	5/18	5/15	5/17	5/19	5/18	6/10
（前年）	5/13	5/15	5/7	5/10	5/11	5/12	5/10	5/10	5/12	5/11	6/5
前年差	5日遅	6日遅	7日遅	5日遅	7日遅	6日遅	5日遅	7日遅	7日遅	7日遅	5日遅
第2世代	6/14	6/18	6/10	6/10	6/15	6/16	6/12	6/14	6/16	6/15	7/8

カイガラムシ類の防除適期は、ナシマルカイガラムシは5月24日から5月31日（前年よりやや遅い）、フジコナカイガラムシは5月29日から6月6日（前年よりやや遅い）と予測しています。今後の気温経過で発生ピーク日が前後するため、5月中旬頃にこれらの害虫について、最新の気象データを用いた防除適期に関する情報を提供する予定です。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の気温は平年並か高い 5月の降水量はほぼ平年並	± ±～+ ±
タマネギ	べと病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量はほぼ平年並	± ±

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
トマト (施設)	黄化葉巻病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い 4月下旬のコナジラミ類の 発生量はやや多い	＋ ＋
ナス (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	4月下旬の発生量はやや少ない	－
	灰色かび病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の日照時間はほぼ平年並	＋ ±
	ハダニ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	アザミウマ類	多い	県全域	4月下旬の発生量は多い	＋
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	灰色かび病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	アザミウマ類	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い	＋

・防除対策

〔トマト（施設）・黄化葉巻病（タバココナジラミ）〕

コルト顆粒水和剤、マッチ乳剤、サンクリスタル乳剤などで病原ウイルスを媒介するタバココナジラミを防除しましょう。

〔ナス（施設）・灰色かび病〕

カナメフロアブルやベルコートフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス（施設）、キュウリ（施設）・アザミウマ類〕

本日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第1号（ナス・キュウリ）」を参照してください。

・留意事項

キャベツでは、春先に気温が高くなるとコナガの成育が早くなり、発生量が増加します。発生を確認したら速やかに防除しましょう。収穫終了後は、残さを速やかにすき込みましょう。

タマネギのべと病の発生株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。発生を確認したほ場では、速やかに薬剤で防除しましょう。

施設野菜の冬春作は終盤となり、コナジラミ類やそれらが媒介するウイルス病の発生が多いほ場が見られます。タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（病原：TYLCV）及びキュウリ退緑黄化病（病原：CCYV）、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミが媒介するトマト黄化病（病原：TOCV）が発生しているほ場では、次作への伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、白さび病の発生があるほ場では、発病葉を早めに除去するとともに、系統の異なる農薬でローテーション散布をしましょう。今後はオオタバコガ及びハダニ類が増加する時期であり、アザミウマ類については一部地域で多く発生を確認しています。本ぽと親株床を含めた防除に努めましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

【参考】東海地方 1 か月予報（名古屋地方気象台 5 月 1 日発表）

〈予想される向こう 1 か月の天候〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。平均気温は、平年並または高い確率ともに 40 % です。

〈向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：20 % 平年並：40 % 高 い：40 %

〔降 水 量〕 少ない：30 % 平年並：30 % 多 い：40 %

〔日照時間〕 少ない：40 % 平年並：30 % 多 い：30 %